



伊勢參宮名所圖會卷之三

目錄

東國より参宮の又街道より別して津の江戸橋へ歩ぬ
其の順治素名を始めてて家又出と

- △素名驛 くまのま △同三橋大明神 みくにの △中臣神社 なかつくみ △神野山淨土寺 かみのやま
- △江場有王塚 えま △佐野神社 さの △尾野神社 おの △龍室山妙見寺 りゅうむろ
- △式部清水 しきぶ △太夫村 たふ △七里渡 しちり △素名湊 くまのみなと
- △天武天皇御宮 てんむ △矢田河原 やたがわら △所倉川 ところくらがわ △繩生 なづな △金井 かねい △小向 こむかひ
- △井尻神社 いじり △豐川 とよがわ △朝明川 あさけがわ △西富岡三光寺 にしとみおか
- △立坂神社 たちさか △富岡 とみおか △鳥出鳴海神社 とりでなみ △日市 ひいち △諏訪神社 すわが
- △三重川 みえがわ △濱田 はまのた △田畠川 たはしがわ △四ノ倉山觀音寺 よのくら
- △追分 おひわか △高岡川 たかおかがわ △天澤山龍光寺 あまざわ △神戸 かみべ △金井林光寺 かねい
- △矢橋 やばし △長古 ながふる △津湊渡 つみなと △若松 わかしほ △三田市 みやま △玉垣 たまがき
- △白子 しろこ △白子觀音 しろこのくわんおん △栗生神社 くりう △上野村 かみのの

△本後。神田。後。△夜手山 △酒井神社 △根上り松

△江戸橋。△箕石 △塔世橋 △塔世川 △塔世村

△津 安濃津 △愛宕権現 △惠月山 △團府阿弥陀 △阿漕浦

△大興山 △上宮 △安濃松原 △岩田村 △八幡宮 △非宮寺

△岩田 △園明寺 △志布見神社 △垂水 △小野 △小加良須神社

△浩見 △志浦 △雲津 △垂水 △小野 △阿坂 △阿坂

△皇合社 △志浦 △雲津 △垂水 △小野 △阿坂 △阿坂

△上野 △志浦 △雲津 △垂水 △小野 △阿坂 △阿坂

△小野 △志浦 △雲津 △垂水 △小野 △阿坂 △阿坂

△曾原 △志浦 △雲津 △垂水 △小野 △阿坂 △阿坂

△阿坂神社 △志浦 △雲津 △垂水 △小野 △阿坂 △阿坂

△忘井 △志浦 △雲津 △垂水 △小野 △阿坂 △阿坂

△松坂驛 △志浦 △雲津 △垂水 △小野 △阿坂 △阿坂

△梅松山 △菅相寺 △光福 △朝回寺 △長田村 △川島 △清水

△七見 △意悲神社 △下樋小川 △下樋小 △川島 △清水

△櫛田川 △津麻 △魚見社 △大國玉神社 △川島 △清水

△保津 △再拜橋 △魚見社 △大國玉神社 △川島 △清水

△齋宮 △再拜橋 △魚見社 △大國玉神社 △川島 △清水

△北島 △同繪馬 △大佛 △大國玉神社 △川島 △清水

△根倉 △同繪馬 △大佛 △大國玉神社 △川島 △清水

△有尔 △同繪馬 △大佛 △大國玉神社 △川島 △清水

△明野 △同繪馬 △大佛 △大國玉神社 △川島 △清水

△板田橋 △同繪馬 △大佛 △大國玉神社 △川島 △清水

△湯田野 △同繪馬 △大佛 △大國玉神社 △川島 △清水

△熱合橋 △同繪馬 △大佛 △大國玉神社 △川島 △清水

△離宮院 △同繪馬 △大佛 △大國玉神社 △川島 △清水

△未曾 △同繪馬 △大佛 △大國玉神社 △川島 △清水

△小窪橋 △同繪馬 △大佛 △大國玉神社 △川島 △清水

△明星 △同繪馬 △大佛 △大國玉神社 △川島 △清水

△小侯 △同繪馬 △大佛 △大國玉神社 △川島 △清水



桑名渡口

三ノ

羅山文集
 曾聞二帝此停車
 憾在吾邦未見書
 今問先蹤人不識
 誰廣風土補方輿



同天武天皇社

三修明神





東國より津の海道より別して津の江戸橋へ出た
其の津桑名を始りて一と云ふ也

桑名驛

城あり文禄年中一柳右京大夫築く不也人家一々余
新富商多く繁昌の湊なり去産多し又向ひの勢加長遠と云

此の北三里に於て本曾川の二宮の上勢及湊の境に
其の津桑名を始りて一と云ふ也

其の津桑名を始りて一と云ふ也

其の津桑名を始りて一と云ふ也

其の津桑名を始りて一と云ふ也

其の津桑名を始りて一と云ふ也

其の津桑名を始りて一と云ふ也

其の津桑名を始りて一と云ふ也

其の津桑名を始りて一と云ふ也

其の津桑名を始りて一と云ふ也

其の津桑名を始りて一と云ふ也

其の津桑名を始りて一と云ふ也

毎年七月十七日祭礼 俗にひさしと云ふなりと云ふなり
又八月十八日祭礼 俗にひさしと云ふなりと云ふなり

ありて若十七日を盛樂と云ふ公より社外御寄附領主も尊敬
て當所第一の神社なり 中臣の神社ゆへ春日大

浄土宗本尊阿弥陀如来 ○江場右王丸塚 中津

魚尾川 祭神推古天皇命 ○尾野山尾野神社 素盞烏尊 祭神

龍室山妙見寺 桑名の記世丁計東 茶の城五桑名少将祈願所にて伏見寺

あり ○式部清水 此の西の林桑名ありむく 和泉式部より桑名を伝ふる也

○古ま村 桑名のを村ありけささより代神樂獅子舞六組又三重郡阿倉川村より

七里渡 旧名阿間遠一渡より天武天皇尾州藝田遷幸の時此渡海長

きよりりて阿間遠と云ふありて桑名を伝ふる也

古き ありの月より桑名をのりして里に急ぐ夜津の舟人 不知津人

此渡の 海勢尾張の境本曾川の爲合此に入る風ありき附の尾尾尾谷へ出ると

里渡り 桑名谷より陸地の神古鳥森をるる 藝田へ出ると依るが上半里は海阿津





隆福園平天皇よりまると
隆福園平天皇よりまると
隆福園平天皇よりまると

素名御船場 海上より船の目高焼常夜燈番の服あり

天武天皇頓宮 素名御船場の西にあり

矢田河原 今ハ矢田町と云

城山 矢田一郎左衛門尉兼之丞保十一年御田右府信長公これを誅

代と ○三久 狐 怪と云と人により

町屋川 橋の長サ百六十石あり西に面よを江の心

繩生 小向のつきねさ 背を合総の驛と云り ○金井 驛村と云 即合総 ○伊

勢 遙拜所と云り神戸の路ありと云

小向 今神明と云り 祭神素盞鳴尊式内之元

古城の跡あり是を村の城と云 沼本三河入る宗喜 撤菴一を弘治三年に依本

所名 ○星川 知事公と云り細き流きをいふ ○安渡寺 本尊観音

天津星川瀬小形のうはる後安のつらと力ありの哉

安渡川やとの流ともい天の川のゆかりと云は安渡寺を此寺の言より名けり

名寄 星川 名寄の 星川神社 所祭織姫の神式内あり 長明

朝明山 素名と日市の間たよる名と云 ○朝明川 海道よ

西富田三光寺 時田相摸守墓あり 文治三年一院御領にて時田

と其所の守護人ありと云 ○立坂神社 式内祭神若守 賀賀令

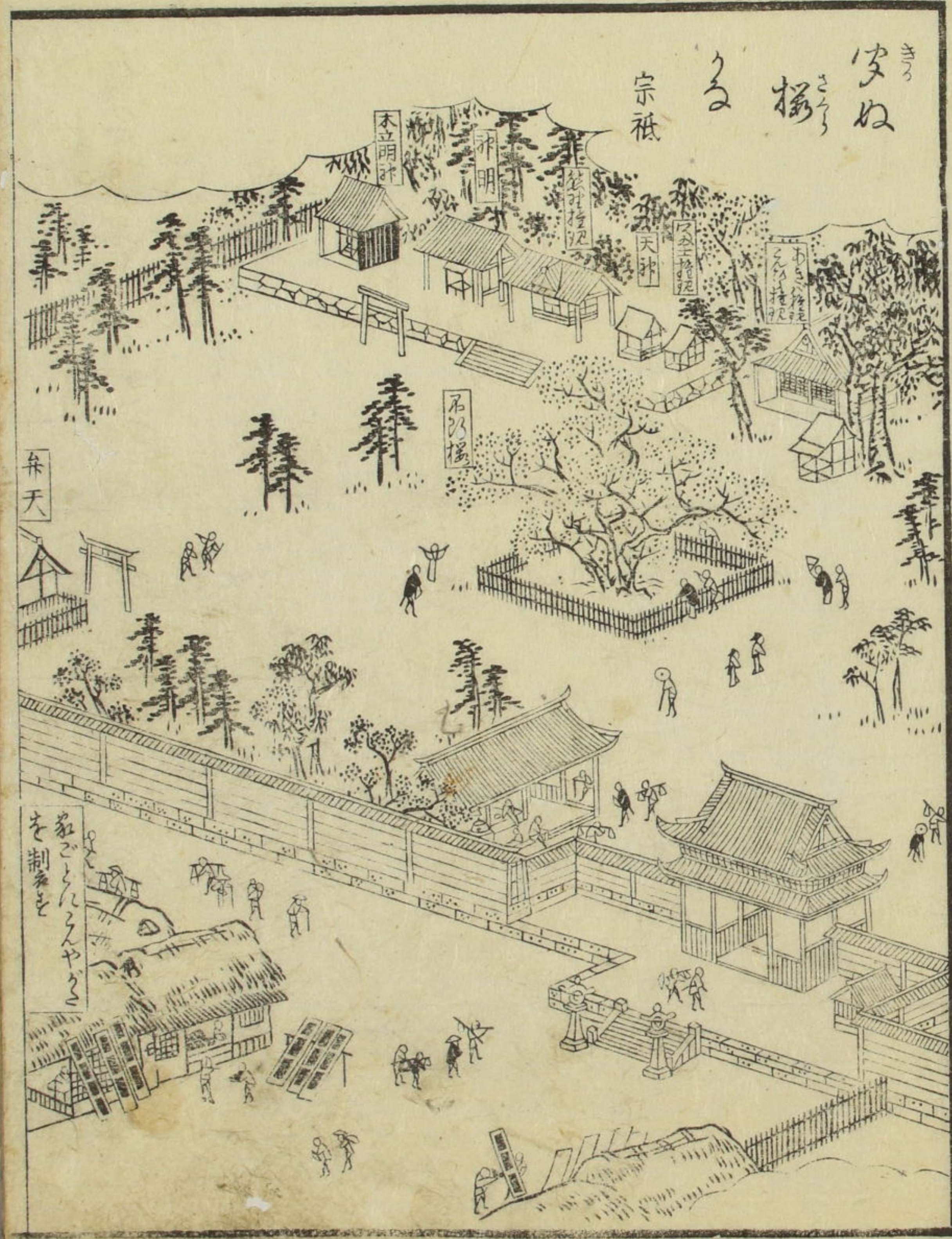
たり此社の境内より流る川を米苗川と云

富田 日田市 名寄 名寄 名寄 名寄 名寄 名寄 名寄 名寄 名寄 名寄

鳴海 神と云社傳とお遠あり

日市 日永村が二里 宿駅あり人五六十軒海陸便よく勢高の地

毎日日市あり日市より神る名号く此溪二町程遠流あり



宗祇
石以檜
神明
本立明神

弁天

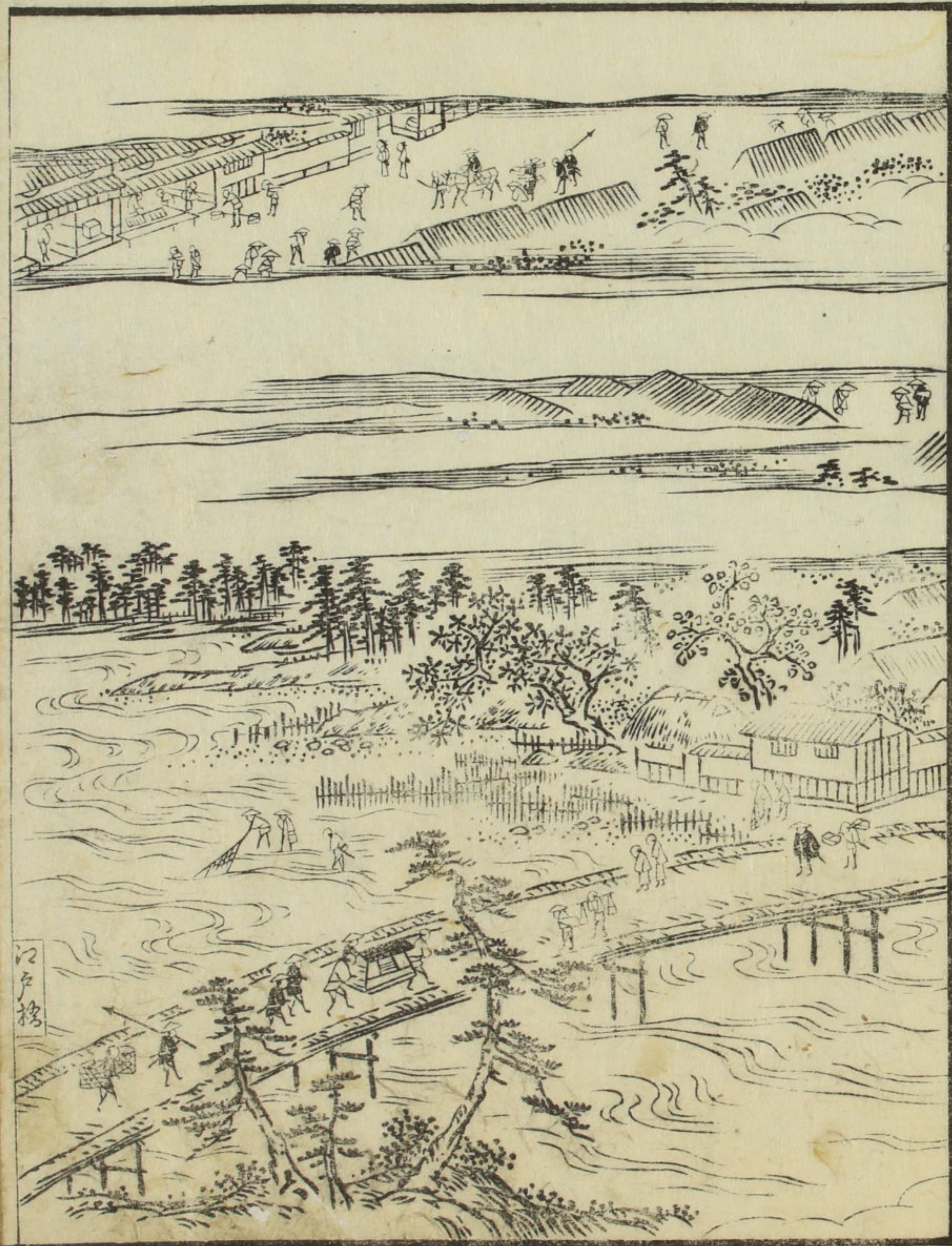
おごころんやうを制する



あまのこさん せんどう
白子観音寺
希不断檜

観音堂

神代



江戸橋



津

江
戸
橋

三ノ十

○若松神戶分海濱惣司の湊之天平十二年十月聖武天皇倭勢圍於幸の府

いもいもりの松原見渡せり波子のうきまの鳴まじり 御製
せーまや波子のうきれおきぎに而後うきまじりり松原 後鳥羽院

○三田市 野西の 如來寺延壽常勅額不ありて三尊佛ををり像あり

内裏の裏は親鸞上人園東 毎身七月に日當并祭を佛の顯智上人の由緒と云

玉垣白子古名瑞垣の里と云 ○弥都加伎神社式内にて糸神土植神

を又信玄の御前と稱と今又内宮(概)を献する例あり 玉垣の土植の文字のよき

白子奄名奄名寺村白子の俗稱之 南の奄藝郡より小川を隈里川

曲郡之人家一子軒餘繁惣司の湊也 此を白子湊と云ふ 素麴 緋形名産

○白子湊 白子所のちん 月報と云ふこれ湊のちん貝の波もいとよきをさうぬり耶

附言 昔平家頼朝の御倭勢圍の者ども黨をさして上総女忠清足を交配 此の白子黨とのり 治承四年八月高倉宮内むかひに治承院のちん後白子黨 比宗治格と云うやう白子黨者比宗付なり川又まがれうきまのぬりて細 代よりてり 倭豆守仲綱これをさす

成置表記 倭勢武者といひやぐれ程きて宇治のありりくをさる哉 一書は倭勢武者と 白子堂といふなり

白子観音 美言宗之 聖武天皇御願所淡海公天平勝宝年中建立白

子観音又子安観音とて婦人妊娠を是を祈る ○比佐皇神社本花用耶

姫命と糸の観音寺と此宮寺也と云今ハ聊の小社なり式内あり

○不影橋 都の御孫徳天皇御孫をさす也一夜又樹の帝御製をさすかへし極させれ

折をいひてつれも極の花ささむる人又や者盤かろらん 今のまじりのつれ

栗真神社 白子の 式内 糸神兵部織姫 今ハ勝子大明神と云 ○大宮天

皇社糸神素盞鳴尊 ○青龍寺 高田流中 春日大明神社 己上在

け不次久田真産といひてれの过的南かりり 紀及也

海道記 三つとといひりりまのいな慈旅社の中れ旅をさるき 長明

上野村宿驛也 旧此不火燃ありて慶長の以後をい長野のちん分都家居燃之其是也

○大別保村 尾糸神社式内にて糸神天細女命 ○弥尼布里大明

神社小黒田村今ハ稲澄大明神といふ三社まとい社ハ稲澄社一社の聖宮

一社に春日八幡の社ありと云

大墓の宮寺を宝幢院と云津の領主の所祈願所毎年正月十日御祈

禱あり○本彌村○裨田村○杖永村○紙智村○横地村○衣子山

本彌にて裨田をくれば杖永や稻垣と云く坊らこら此里

衣子の酒井川と云小川の上あり

衣子の山乃林藤又立麻のうら淋しきと曙乃寺 弘仲

○酒井神社 酒井川の 祭神秦酒公之此不郡山村と云

根上村 町家村と云昔は不世遠の路傍又老松の大木あり根上と云り根の上と云

根上り此松又益け泳むと云波よと云つこの里 弘漢人

江ノ橋 大郡回山の入口九りの方の古橋あり

筭所 中茶屋の 今ハ修驗者陰陽師の居不之

加茂五郎景法其男加茂修驗守光貞其男兵衛尉光兼居候一ツ光兼兼之多中

門系との地名あり

塔世山四天王寺又護國殿と云 塔世川の曹洞流にて本尊六日如來左右

阿弥陀釈迦及に天王禎護と云子堂。鎮三社其外佛像後。中を藥

師如來 兼師如來の七不思淨ありて出の浄と云 續日本記天平九年聖武天皇諸國ハ

四天王寺建之勅と下し終人就中此寺と帝都にをきをなして諸國

に先達て建しむ此の早く停止とありて化と云くは其後

加茂景道是を中真と云三月とあり又四條院天禍三年叡山快然東

遊して黄金の誕生佛を得て帰里當寺医王殿且安と耐且

寺皇傳りてふより快然一菴を繕ひておれ居候と云

錫を起して小弑且袁且永平寺道元禪師の繼と云

此寺禪宗と云と云 其後文祿三年甲午正月七日鐵田信長公の母公此寺にて逝云

機をカフふより母ももにありて當寺に花を植候牌あり其後同信法也

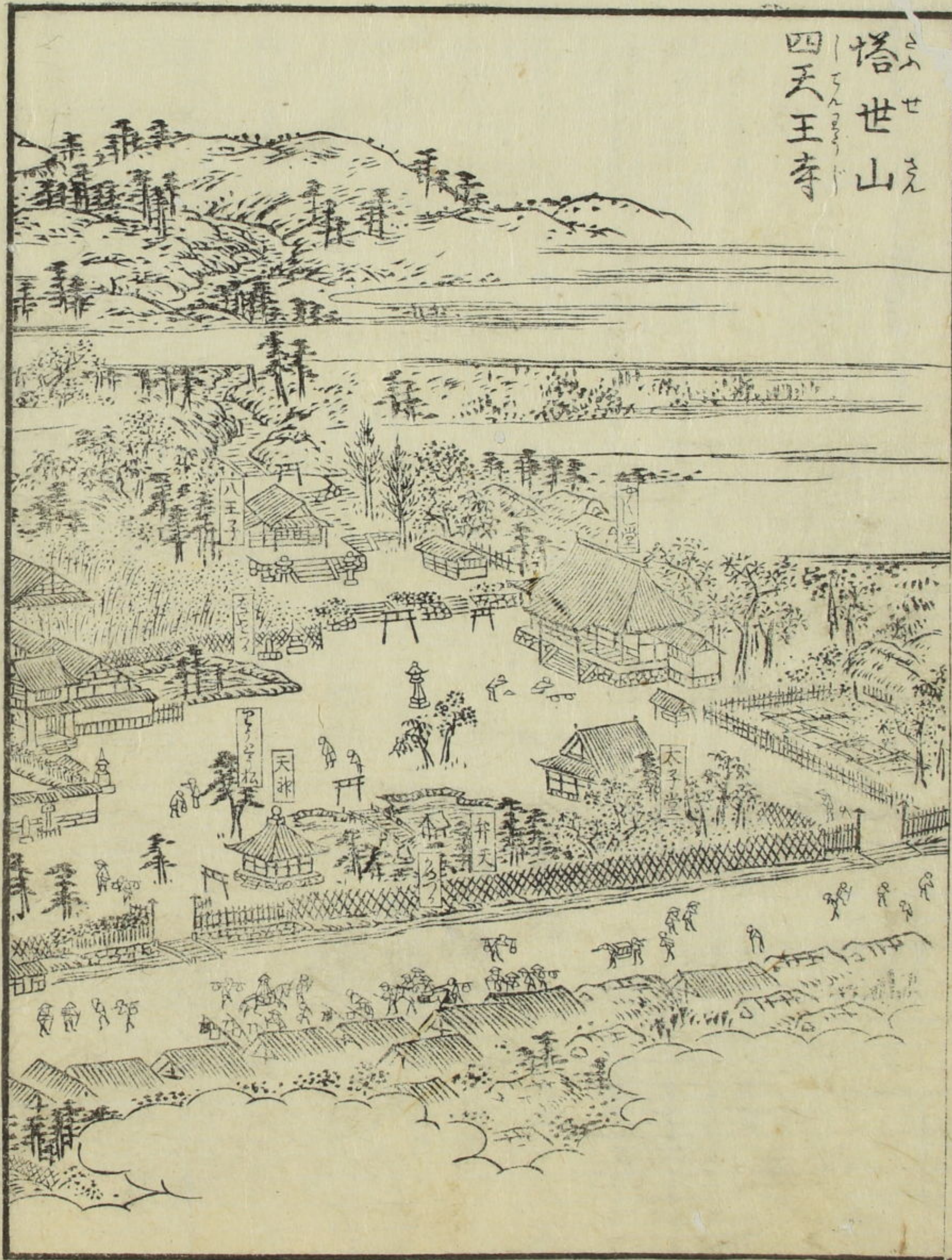
寺に八十石の石を附を其後長又多石回三成送死のと云兵史あり

と云とも加茂建之のゆを國史聖武記よと云り。境内又芭蕉の塚あり。塔世は不の地名あり

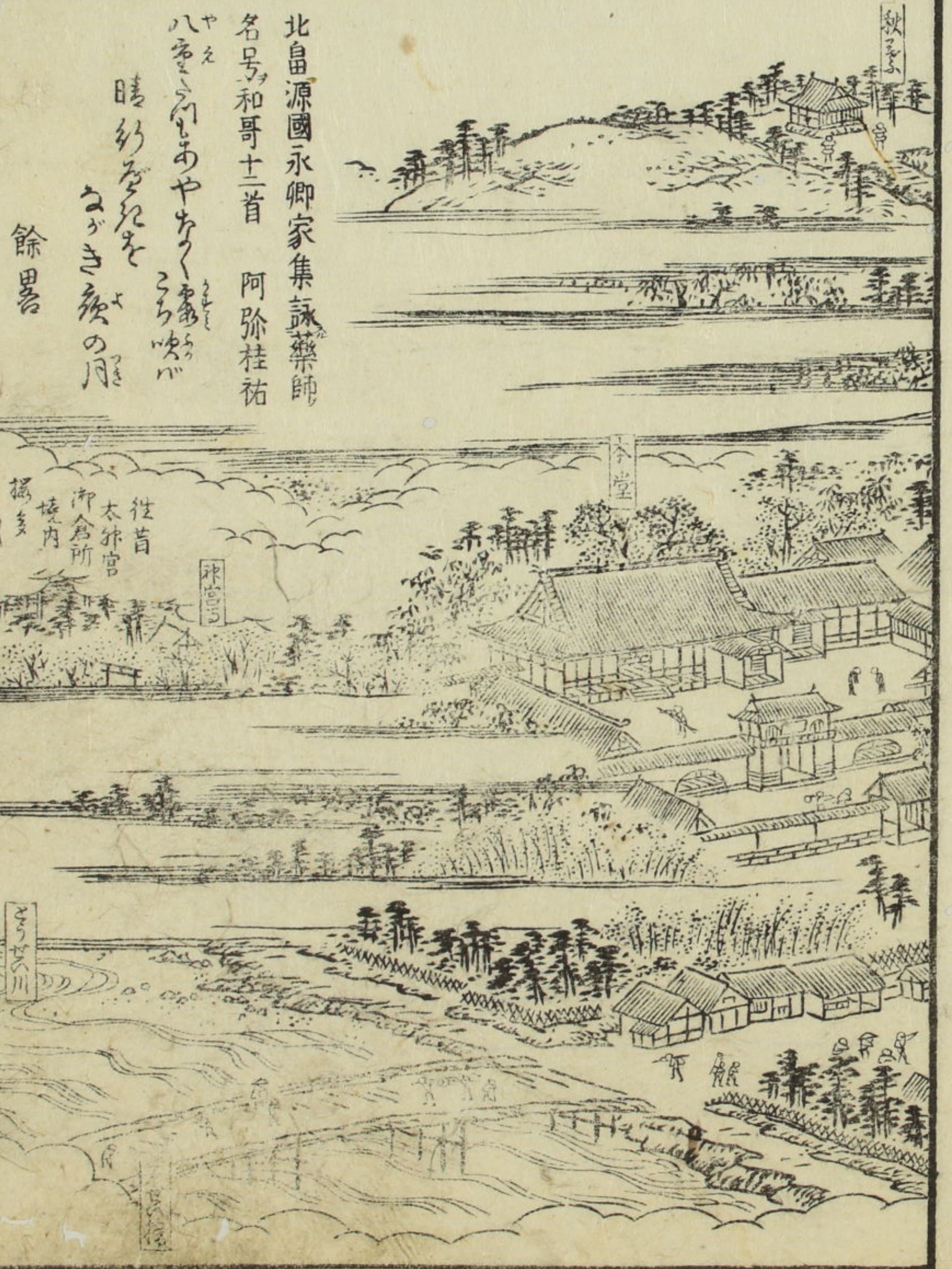
塔世橋 塔世川 塔世村 塔世南へまゝりて川原の東南に村あり。塔世は不の地名あり

郡去深の所厨ともあり。所厨ともは神宮の神の所也良

塔世山
四天王寺

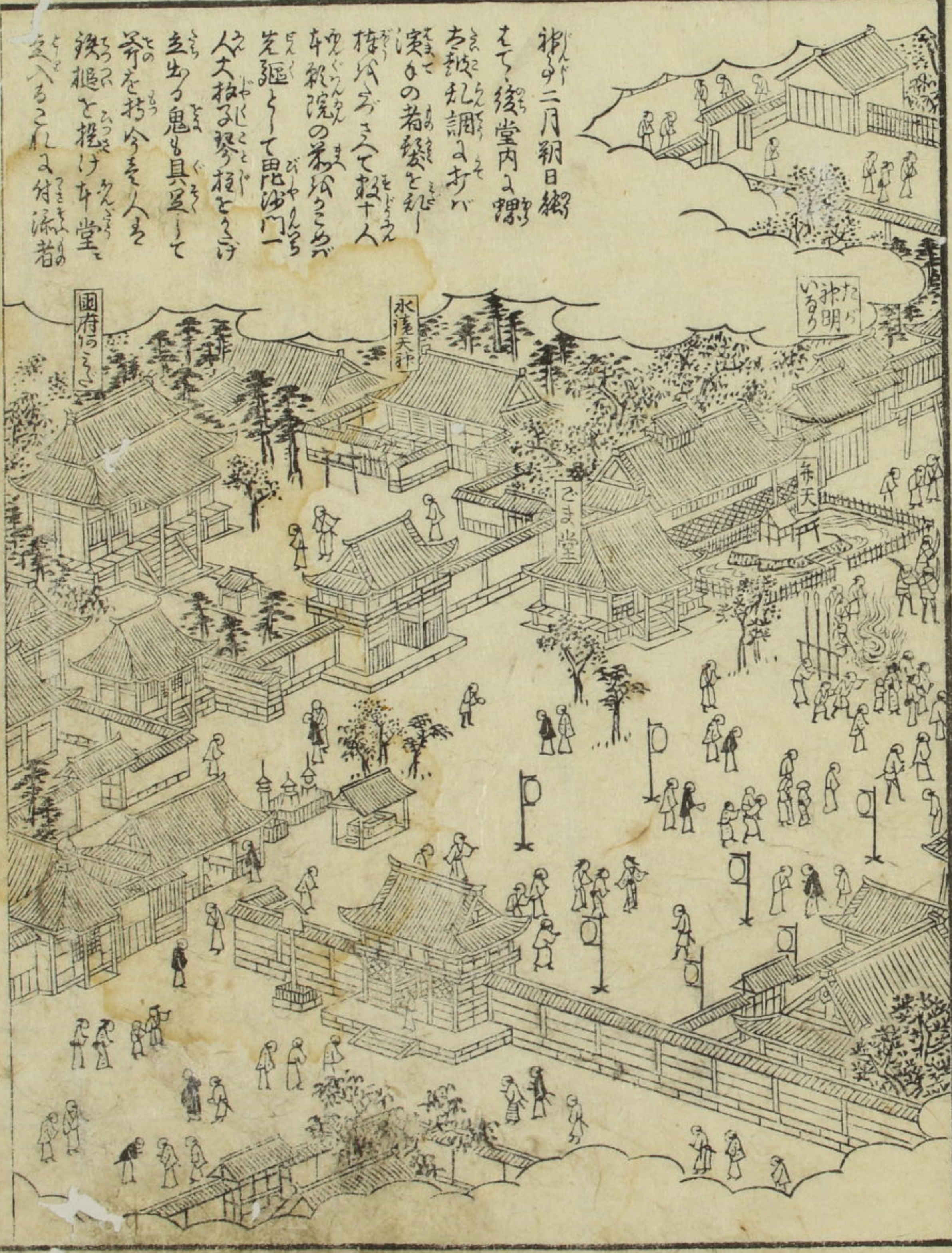


北畠源國永御家集詠藥師
名号和哥十一首 阿弥桂祐



晴夕をたを
ながき夜の月
餘畧

往昔
太神宮
御倉所
境内
橋



御前二月朔日御
 ても後堂内より
 ち御礼調へたり
 舞の者登を起し
 梅以てお十人
 軒前院の敷に
 先驅として鬼沙門一
 人太極を舞うに
 立出る鬼も具足して
 斧を拵かき人を
 渡橋と捲げ本堂
 に入るこれ又付添者

國府のこ

水陸天社

光明

本堂



國の府の阿弥の陀

惠日山
 觀音寺
 鬼おの祭

後まゝいひても壇
 持を奪うれ抽と
 又おのて鬼の
 祭にきて祭と掃ふ
 者ありこれを
 退く者お十人
 白ぬらうて
 鬼とけんをす
 かくらう堂
 外三面にて止
 具足は鐵城入
 るの遠地をり
 とつて他ふ



阿漕の芝紙の
 意を寫し尚本
 阿漕の糸やよ
 出せり



阿漕浦

後照念院
 関白大臣
 阿漕の
 意を寫し
 尚本
 阿漕の
 糸やよ
 出せり

所名

津

武天皇十代の後亂出羽守平正樹の三男安濃津三郎平貞樹より平氏朝の位居之此後
明應三年八月七日七月七年六月十一日及友の大地震又安濃津十八九丁沈没せるは今日
の地へ移さる其後文録の記今今安濃津へ細野九郎左衛門尉敦成を築きて治せり天正
十一年より鐵田上総久信包城主とあり坂石垣を構へり又天正十八年家田家城主長
のち城下廢去す
附言 亞將源親房卿 洞津 津と云るものここの津の物語にしてを洞津といふ一
との文あり其書やまの國の人の口に傳へたる付又傳勢又洞津ありきやと
武天皇十代の後亂出羽守平正樹の三男安濃津三郎平貞樹より平氏朝の位居之此後
明應三年八月七日七月七年六月十一日及友の大地震又安濃津十八九丁沈没せるは今日
の地へ移さる其後文録の記今今安濃津へ細野九郎左衛門尉敦成を築きて治せり天正
十一年より鐵田上総久信包城主とあり坂石垣を構へり又天正十八年家田家城主長
のち城下廢去す
附言 亞將源親房卿 洞津 津と云るものここの津の物語にしてを洞津といふ一

此津のなりとより洞津なりは格武の文にあり代々の和歌み多うき傳勢守經藤が記に
洞津と云ふ其書やまの國の人の口に傳へたる付又傳勢又洞津ありきやと
あの中しるのやうに安濃津とて傳へたる國の國帳して民のつとまを
の家とのとらきさせ今今安濃津も平家のむらこの國又ひそまらる付八
の宮としていひ多るも後て今安の傳勢とて洞津と云ふ本をみりて
たり又左衛門家として傳の傳のりの中しるの國帳して民のつとまを
捕の捕とぞや傳人き其たり又安濃津のやうに傳勢の傳勢の東川にあり
凡の記を又終ぬこの二社も安の宮宮のやうに傳勢の傳勢の東川にあり
○愚按洞津の訓ハナ津ナリ洞津を穴とよむ例あり
板士傳多清記云 傳勢困安濃津より洞津に遷りて傳勢の傳勢の東川にあり
て洞津ありと傳勢の傳勢の東川にありと傳勢の傳勢の東川にあり
ひびくは洞津一と云ふ

凡そむいそやの枕をさるよそあつる浪をぬき神を

愛宕山 標の山 此を愛宕権現と云出雲の子の方狭まゝして塔を乃

熱社之延喜式神名帳に比佐豆知神社とあり是也 白子にも同名の社あり

惠日山観音寺 奉尊如意輪観音石像 秘佛 縁起曰元明天皇和

洞二年乙酉二月二日安濃津の浦より渙夷の網より出て出現云云

奇瑞叡聞に達し勅みよみて伽藍造立ありしに慶長に年此共火

に燒亡し其後造立みて真言の僧房奄藝郡窪田村の内蓬萊

山六丈院をこゝに移さる 今の六丈院 都合今七院あり 舊の伽藍の地あり

一の所厨とも云即阿漕浦の所 費の多うにあり 古神宮影向の靈場一神

寺あり其名のころりや 古厨の所 藤原氏に 古神宮影向の靈場一神

主の地と云ふ古東門前にも井をあり 古神宮影向の靈場一神 毎年祭れを是を

鬼押への神と云其式

二月朔日未の修心會の法を秘る花よ菫番の氏子喜竹と持て
エイくと云て駈入る瀧人も共舞 舞 一同音よエエエと

或云むらうの
 此鳥と云ふ
 麻衣のりり
 按るは雅日女
 祭の鳥の縁
 うきうき
 かしら
 祭渡六月十六日
 又此神若白
 衣を紙と包
 押入と一藤芳
 を具せしめて
 又准て持物とす
 りる俗ちうこれ
 女神のるるれ
 ざー



香良洲
 御前社
 多気宮雲云
 前西羽がす
 舞くて麻衣
 ひろりひと
 舞くおふよ
 田と神の
 文々より
 いそひ
 そらぬ
 とらぬ
 虚をたぬ
 かしら
 又も
 あふさ
 えりま



雲出川

雲づ川

あぶさき

くまの

細橋

竿

かろり

も

ワ

旅人

栄雅



所名

三度大妻をめぐりて
 後これと懸て
 是より神宮秋の池
 丸の渚神宮の系を
 といへ余尚園の上と記を

又供る物ハ鶴の子ノ芥
 又牛玉項裁の像ありて
 此れも神宮存勢三座の
 ままありてたとむを
 存勢の神樂

園府の阿弥陀
 記より
 園府の阿弥陀
 園府といふ園司
 園府といふ園司
 園府といふ園司

寺荒廢して尊像雨露に朽ん
 園府といふ園司
 園府といふ園司
 園府といふ園司

大樂山上宮皇寺
 園府といふ園司
 園府といふ園司
 園府といふ園司

えハ律宗にして今ハ高田流ハ
 十六名の像
 阿古本社
 安濃松原

今も
 明應七年の地震に
 波に沈る其

西の法師垂水成龍寺へ
 年々と多う小童達の来り
 うきのけり多うをりて

とて見と

とて見と

とて見と

とて見と

とて見と

大の中

法師

来れを

とて見と

不思議のさいと

かゝぬ



新の津の町と海との間ありしと也
 昔は松原道へも大松ありて
 船系基より色にきりてとて

安濃湊田

安濃河原

又あの板橋の事

岩田橋

に當城の岩田口

阿古本浦

阿古本場

北畠材親

岩田村

阿古本浦

阿古本場

北畠材親

阿古本浦

阿古本場

北畠材親

阿古本浦

阿古本場

北畠材親

阿古本浦

阿古本場

北畠材親

所名

所名 所名

阿古本浦 今津の磯下岩田橋より異なり
 阿古本場 往來の阿漕所より東の方海邊に
 北畠材親 北畠材親の記ありて
 岩田村 今津の磯下岩田橋より異なり
 阿古本浦 今津の磯下岩田橋より異なり
 阿古本場 往來の阿漕所より東の方海邊に
 北畠材親 北畠材親の記ありて

隆心法師

為家

長明

尊俊

○按るに河漕と地名小く元一堆の砂にてありしを平らぐ其地奇六昨細の題して
あまの砂河と名の砂より細のさしをさすなりぬへし

此寺を築ていせの海ありしが浦よりいかにあまの砂をかきよるは元とにありしと云はれり
あまの砂といふ名のゆゑに濃の字を以て手と傳く安海浦を傳りたりと云ふこと海子
のゆゑにきよとも本かりなりこれ海本をこみ積りたるの多きと云ふよりあまの砂と云
つひにあまの砂と名の地ありしが浦よりいかにあまの砂をかきよるは元とにありしと云はれり
あまの砂といふ名のゆゑに濃の字を以て手と傳く安海浦を傳りたりと云ふこと海子
のゆゑにきよとも本かりなりこれ海本をこみ積りたるの多きと云ふよりあまの砂と云

○此書奥書 明德二年十一月二日云 按るに此説據ある小僧といふは彼次盛を刑又約と
系圖に之を安んずる流儀のゆゑに之を六收といふなり後次盛の孫の孫なりと云ふこと
○此書奥書 明德二年十一月二日云 按るに此説據ある小僧といふは彼次盛を刑又約と
系圖に之を安んずる流儀のゆゑに之を六收といふなり後次盛の孫の孫なりと云ふこと

岩田山圓明寺

岩田村を寺にすなりと云ふなり岩田村一境をまむる寺なりと云ふなり
此寺村を寺にすなりと云ふなり岩田村一境をまむる寺なりと云ふなり
此寺村を寺にすなりと云ふなり岩田村一境をまむる寺なりと云ふなり

本尊六日如來

此寺本尊六日如來と云ふなり
此寺本尊六日如來と云ふなり
此寺本尊六日如來と云ふなり

圖磨堂

岩田村ありて城より寺なりと云ふなり
此寺本尊六日如來と云ふなり
此寺本尊六日如來と云ふなり

八幡宮

此寺八幡の社の地を八幡といふなり
此寺八幡の社の地を八幡といふなり
此寺八幡の社の地を八幡といふなり

結城入る宗廣の古墳

此古墳宗廣の古墳なり
此古墳宗廣の古墳なり
此古墳宗廣の古墳なり

神宮寺

此寺神宮の社の地を神宮といふなり
此寺神宮の社の地を神宮といふなり
此寺神宮の社の地を神宮といふなり

春日大明神

此寺春日の社の地を春日といふなり
此寺春日の社の地を春日といふなり
此寺春日の社の地を春日といふなり

志布弥神社

此寺志布弥の社の地を志布弥といふなり
此寺志布弥の社の地を志布弥といふなり
此寺志布弥の社の地を志布弥といふなり

矢野

此寺矢野の社の地を矢野といふなり
此寺矢野の社の地を矢野といふなり
此寺矢野の社の地を矢野といふなり

小加良須神社

此寺小加良須の社の地を小加良須といふなり
此寺小加良須の社の地を小加良須といふなり
此寺小加良須の社の地を小加良須といふなり

此後より漁舟をうりきりし津の入海は其船後物を社記曰祭神は天津
稚女稚日女命とやて伊勢諾伊勢冊御子天照古神の御妹にて
かゝりますす欽明天皇の御宇は津國活田長杖園よりかゝらすの地

いさうり移ひ交野の神とて教多事をいさうり人の穀を満給ふ云
伊代卷と神の膏腹は機織せ給ひし時とてその神を道新にして
お入給ひし時とて枝とて機織の月夜帳にいつてその神を移ひし時
氏の加良須考とて書をいさうり小社記より遠へり小加良須社と加
良須女の御子天水中皇命とて度會延經の神名帳考證は
稻系いなぎの神社とて云説も破せり其辨説長文にてを引證す

固てこれを畧と其書とててるべし

▲星合祠 星合村 小祠七座をいさうり 此祠昔に入江ありしは星合後
とて今も遺蹟にありしとて遠へり 神名帳

云波多神社也而祭棚機姫神之なり星合社とて
○按る小社代を稚日女命衣腹殿は神衣を織とつひ又右徳拾遺より棚機姫神
傷身死らふあり此よりいさうりすの神社はけりあり尚考へるべし
伊勢の海名と記して浪枕ありやとて星合の浪
九条内大臣

所名

▲一志浦 十載集にせ徳やつらし浦の名 雲出寄 世徳や月のとらふにたれ吹き
あまがねの神のぬき物なり 所 津がたの松のむらま 大申 親守

所名

垂水 津の南 垂水と名の浦地の古名とていさうり人を垂水の君とて其山に
の孫阿理眞公孝元帝の御討つたてり高榎と道と早懸と板板改て垂水姓と揚

又諫争録云 垂水産信の後醍醐帝は徳成より准后これを見いさうり國を去て垂水は
耕と其後大濠宮及び武氏刺真名より垂水産信をいさうりすは遠へり書に著し
嘉文元記五巻とていさうり此書信りいさうり孫松坂の南嶺地村にありしとて

垂水山成就寺 長法寺ともいさうり 本尊大日如來 貫の寺徳を考證し給ふ元龜の兵史に
退治せり今いさうりの小村の村の内あり余も是とていさうり

藤瀨 津の南一里 藤瀨といはるる浦ともいさうりて右の磯に
宮の御厨にせは九斗内宮とていさうり是を燒出の里といはるるいさうり及方の御厨とていさうりこれら
小島園司のかを及方刑部少輔入る慶由住りしとて

名考 されともいさうりぬらちやりる菜といはるる菜はいさうり及方の
連久元年長子内親とていさうり

片樋宮 村の内及方の森あり但し其片樋の宮ありしとていさうり
其の片樋宮は河板ありけり一説といはるることあり

上野 村あり ○高茶屋 茶屋ありいさうり其より時天とい
富士といはるるありしとていさうり

○小森 十社の宮あり是も神守
ともいさうり其より三座
島貫 雲出川 此寺村ありしとて垣川とて隔て川あり水出ありけり
いさうり此寺といはるる雲出川といはるる

○雲出川 此寺村ありしとて垣川とて隔て川あり水出ありけり
いさうり此寺といはるる雲出川といはるる

○雲出川 此寺村ありしとて垣川とて隔て川あり水出ありけり
いさうり此寺といはるる雲出川といはるる

○雲出川 此寺村ありしとて垣川とて隔て川あり水出ありけり
いさうり此寺といはるる雲出川といはるる

○雲出川 此寺村ありしとて垣川とて隔て川あり水出ありけり
いさうり此寺といはるる雲出川といはるる

所名

文保六多百首
雲津川せれ入くまける苗代は秋の産くそ兼て入くたれ

俊頼

所名

此川勢南勢山の麓に小田園日勢南を流るるに於て永延十二年信長侍勢を討んとす
又まつ本道を味方せしむる國司貞教卿大志里松極は道の入勢より其母と此
川に率利せしむる勢州軍記

所名

小野右江渡 小野の流とも云指不素洋 系清記云 雲出川の只を渡を去のこ小神右江渡
と云ふと知りし出せと云 右乃此ありて渡迎をのこし日と云ふと云ふ物も物も
の系八月十一日毎日隨道川流る後八月晦日隨尾野添る標と云ふは川と云ふ川水は
夫云 一は波毎のいもあまふりてや、標よぐりあつてのり

長明

所名

小野橋の海小神のこまは流るるにのこまてん人の心と

所名

須川 雲出川の便俗よ 肥田社 月本 領川の是 此石大和街道のふとるる

阿保城 又修安

所名

曾原 曾原村より一里津より二里半の早合村の 古城趾 村の西を流るるありわ畠の畠屋天守城申古

所名

三渡瀆 曾原村の左の渡今一はあまの川の地の海をさく一時の名をさす一は渡りひるるは波の引一は

三ノ九

所名

六彩茶屋 三渡り村とも云修安 渡川 雲出川あり

所名

阿坂山 一名神屋 山法山浄眼寺 此寺は修安を神宮の戒名と云ふ物高嶽浄永

所名

阿射賀神社三座 嬉野 阿坂の社趾 畠をこを小阿坂と云ふ

所名

白米城趾 小田園推御意永三奉又藤く于時足利義満よりこれを改てのちれり名を左切御ふ

所名

忘井 御石を入方より標石の號り國源内の書に傳ふ小社あり

所名

久米 塚中 松江 村内は八幡宮あり

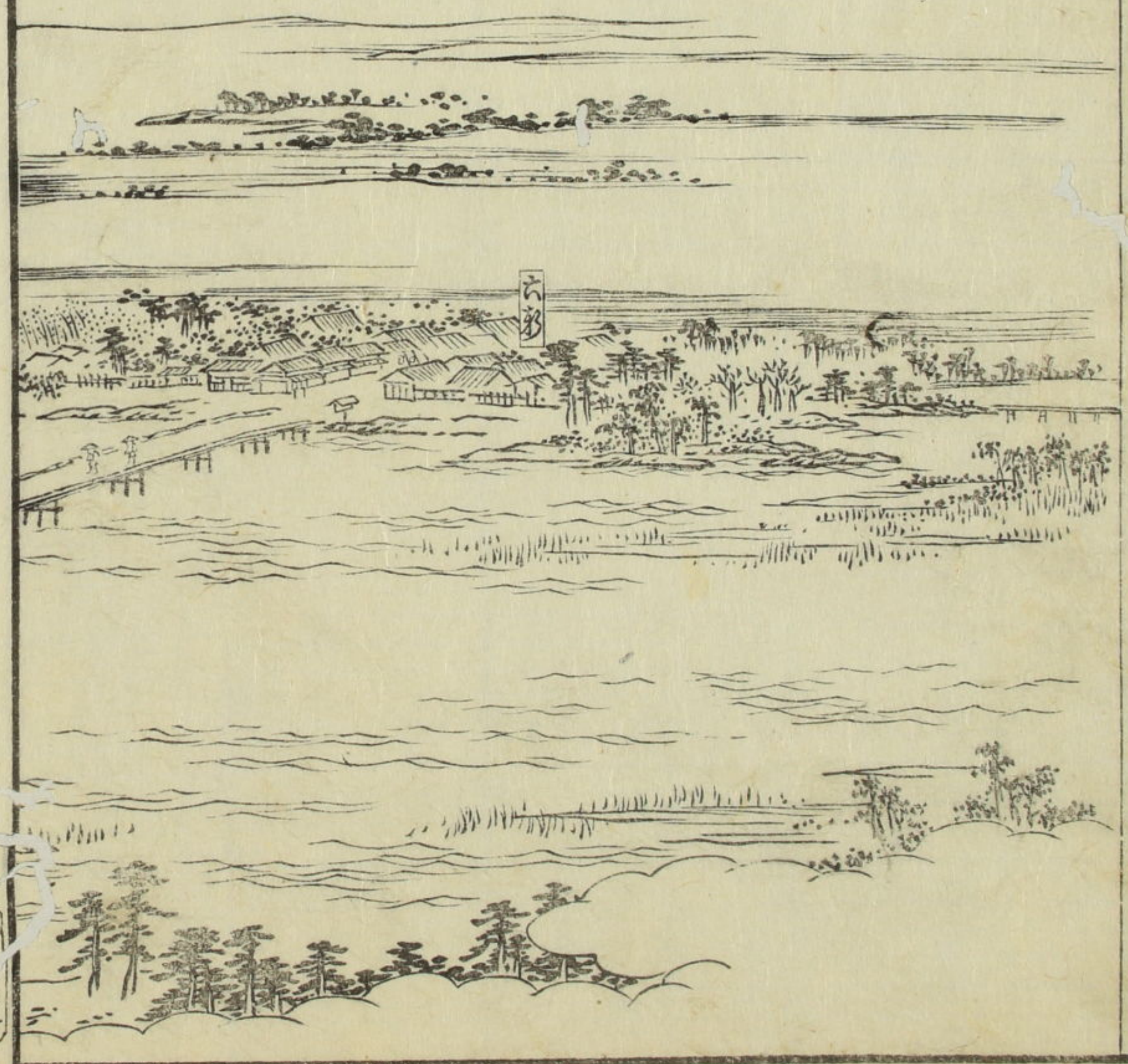
所名

利隴山薬師寺延命院 右あり 信よ松江の薬師と云ふ子安地を安と真

三渡川 今なき川

長明傳勢記云三渡川
と云ふなり波干ぬとは
さるこれ海よりかたこの
さる人曰くぬるふか子
ぬとは松崎と云ふなり
まゝなり若は海ぬまは
ちからをばえまゝ
で尚遠く免ぐり
市場と云ふなり
され波干ぬまは
ひ其の川の三不
ふまは三渡川とい
ふなり

三渡川の
跡をたゞ人道



ちぬぬ

おのりまほの

かき

くま

長明

源川を後々の
昔此やう海の中
ありし時其後の波の
退く間をこそ



機園的

俗勢治の戯場
うてはくみま
昔大原はゆる
人かの雑喉寝
以てく園疾う
妻室ちくはか
彦のく其女を
これの思一は食
付もなき祝ま
又怖は其後幸
さて都の方の
まはるる人ふ
みまへけ偶神
似たり中不
まはるる
まらるる
こそはれ



忘井

天仁元年
群勢の付忘井
と人ふそ

王の道

まやこれ
この
まき
いさ踏び
忘井の
あ

育官甲斐





西庄の橋より見る松坂大橋の水上の
 日郡下仁持村神倉系神倉の
 より出く石津村を馬路にて
 備師平尾村の馬路山へ流る
 海へ入る



まろじうおかし
 松坂大橋



けり昔秋宮櫛をなごり
 後大坂を渡りて柳田川と
 又之昔の下極小川は此所より宮
 川へ流るゝと云

きんぎょ
 くしだ
 川みや
 んね
 事終
 神の
 まは
 うら
 解ぬん



櫛 田 川







いふと 舊名竹川
 稲置川 又後川とも云

昔勅使を遣はしむるに
 後を脩むる式ありて
 近頃の後として下樋小川
 の後を境とせし
 今ハ宮川とて其式
 ありと云

○三冊の折々
 ありて是と後との
 森と云これ
 古なるなり

齋宮村
齋宮の村
 側幣使休
 和泉屋

齋宮旧跡

三ノ宮の古蹟
 俗に女宮の古蹟
 と云ふ所跡奥に
 小祠あり
 堅井
 系譜記云 齋宮は
 縁りぬつり一の築
 地の段と井ありて昔
 本の家と云ふあり
 名も昔の跡跡りたる
 うらみよこたなれを
 人だにもかくと云ふ



世とはさふ本
 とのこころをいふ
 今日本のもろ海を
 五植よりま内又天
 の社あれどもそを
 はたけぬ女宮の後の
 あれ一と俗よこれと
 野宮とつら
 深りなる



大園玉神社 云御祖神社 六根村より此系 保津 六根の ○天香山社 保津下

多氣川 一名楠本川 又後川 今の姓来より北又右道あり昔より勅使と云ふ

運へきり後と傳へたるの式あり左は後戸の森と云ふも今川宮川より其

式終る每宮群紗の射も花隈の後あり 源大如伊勢の境に足懸山あり

非代よりともかきぬ竹川の代々を君にそかきりてん 源の浦より郡村の海邊よりある事実画よ記と

竹川の橋のほちちる花園は我をはゆるせ免 漢人不知

再拜橋 幸そ 後川の後場ふ赤山ふ乃勅使参向の所多摩川よかけ 橋あり

いづつれとていひの橋柱守門名も 不幸大武 高遠

今此橋柱の跡も 今此橋柱の跡も然瘧疾又小児瘧症のまかりは用也とは説ありともつり。往來の

亦麻宮村 今別坂のつぎ 昔每宮あり 女宮のまゝ

齋宮舊高陵 即每宮村に里人是と 今每宮の本標又每王の宮とて二不を分く

とも齋宮齋王の別依 每宮の每宮のついで 又足を按る 又足を按る

武每宮案 大社十七座 每宮の内 其十七座の内 地々の神 一

小 と 画馬舎 み 是旧 迄 築地 の 中 より 又 是 每宮 又 竹の宮 成

大 お 每宮 と 機殿 と お か け り 竹 の 宮 と 稱 せ たり なり

常盤 なる 竹の都 の 名 を 承 り たり なり

竹の宮 ま たり たり へ て 代 ま たり たり け り 神 の 名 を 承 り たり なり

皇 大 神 の 御 枝 の 代 と して 安 たり たり け り 神 の 名 を 承 り たり なり

王 の 額 み たり たり せ り 都 の 方 へ 延 び たり たり け り 神 の 名 を 承 り たり なり

齋 宮 渡 船 垂 仁 天 皇 二 十 六 年 の 比 倭 姫 命 は 神 の 名 を 承 り たり なり

治 の 御 又 十 珍 川 上 の 大 宮 の 際 に 系 の 天 皇 二 十 年 庚 寅 倭 姫 命 多 既 也

老 老 蒼 て 是 り 人 ま たり たり け り 神 の 名 を 承 り たり なり

景 行 天 皇 第 五 の 御 女 五 百 時 自 皇 女 八 須 姫



伊勢物語は男いせの
 闘狩のほよびてかた
 故宮よりくろくろが
 帝の位かたれをくも
 やどさた女の移やをくあり
 くれが男いせんとあひく
 いねで作りたる女は月の
 かたふ少日くすはたれま
 くまてあひたりまごけり
 もかたりの隙をぬかぬあひ
 て女のくより云はあはか
 君やに我やゆえんやをた
 愛かたつてり愛てりま
 思ふ人よまよふまよ
 かたあはれあや
 まよひまよ
 山あ
 愛かたつてりま
 こよひまよ



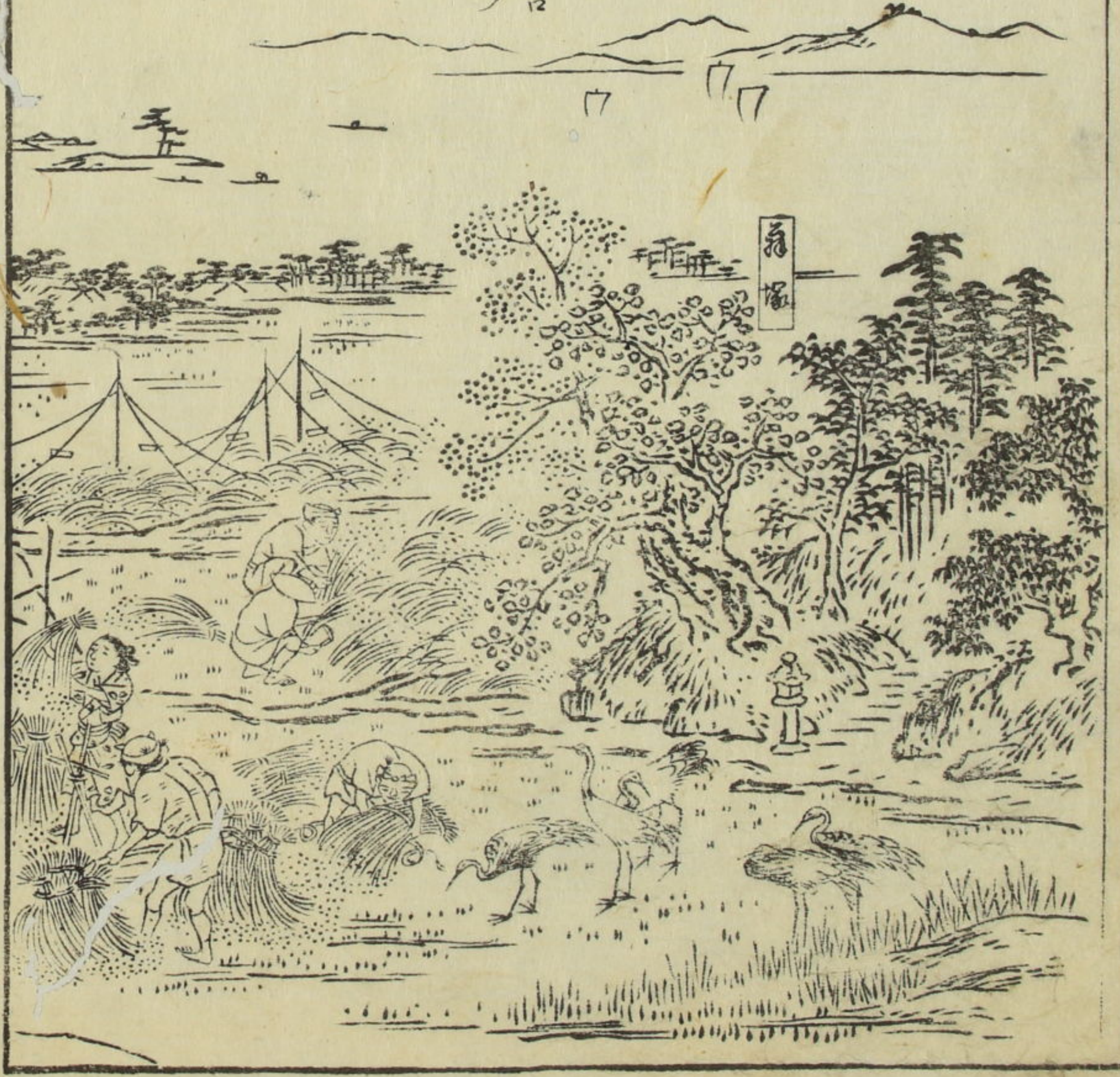
大淀濱

伊勢物語
大よき此濱

中へ入るは
かた
かた
かた
かた

大淀松
西大淀村
海濱あり

あふよこのま
あふよこのま
あふよこのま
あふよこのま

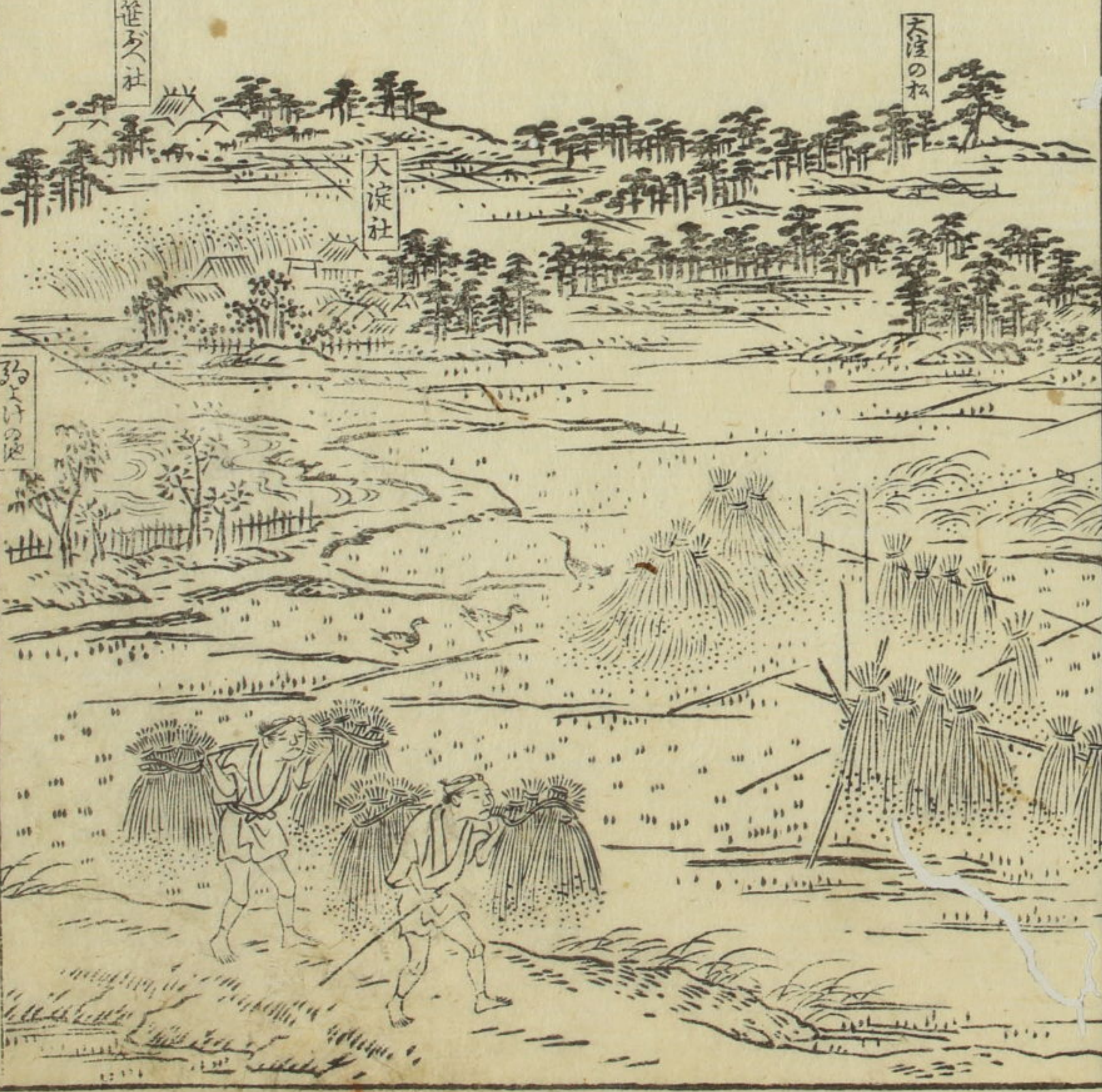


鳥居

走保合能宗ま

大よき浦
群居る友の
あそび日くげ乃
危きもの

け泳心よどく秋の
あ地はゆきふ綿積
あやの傍は群
あそび日くげ乃
危きもの

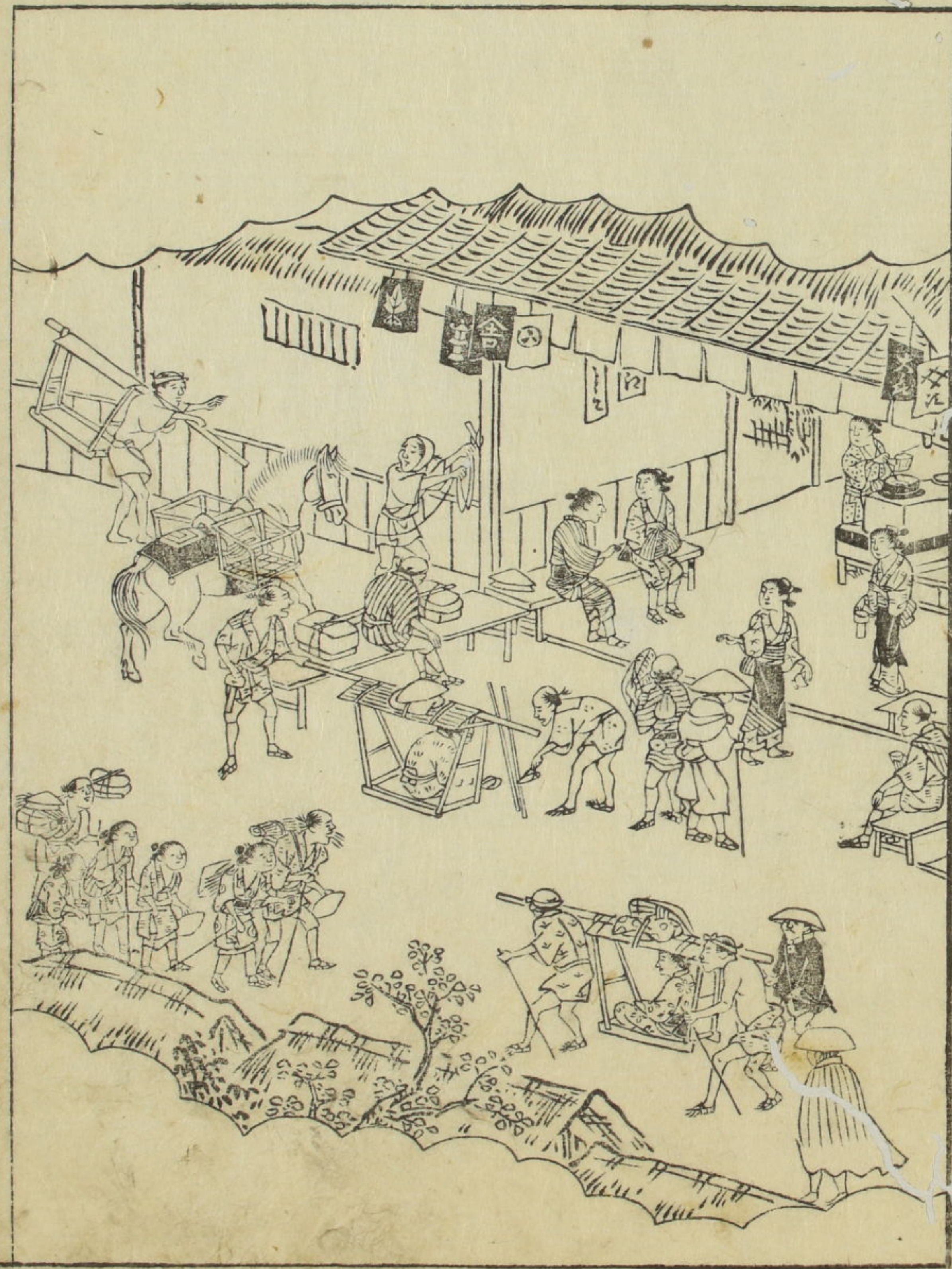


大淀の松

大淀社

大淀社

大淀の松



命日多の妻二月皇太神へ奉りて是侍勢母宮親の始なり三月宮治
の秋宮より多氣郡多守の御(宮)瓜うりて方城に町宮舎を造(宮)
竹の宮と稱し一代の秋内親王安(宮)と其皇霜九百卅に奉を經て淳
和天皇天皇元多甲辰秋九月竹の宮より皇太神への秋遠(宮)とて度會
郡湯田御宇西(宮)の離宮院(遷)され後十六奉を經て仁明天皇乃
美和六奉の宮舎一百余宇一耐又燒(宮)とて再(宮)多氣郡竹の宮より
奉り其後又二百八十余奉を經て後(宮)多天皇の御女禁子内親王と七十五
まで秋(宮)多(宮)其の(宮)後醍醐天皇の御女祥子内親王秋宮と立(宮)
とてとも元亨の兵亂(宮)多(宮)して若(宮)の秋宮と稱し南(宮)又長(宮)門院と
ぞ中(宮)ひ(宮)是(宮)侍勢母宮の改(宮)と(宮)る(宮)也

○定齋宮事 延嘉式曰九天皇位且即(宮)多(宮)先(宮)母(宮)を(宮)定(宮)む(宮)内(宮)親(宮)王(宮)の(宮)奉(宮)せ(宮)
る(宮)者(宮)を(宮)卜(宮)ひ(宮)其(宮)家(宮)の(宮)内(宮)面(宮)内(宮)外(宮)の(宮)門(宮)は(宮)本(宮)綿(宮)賢(宮)本(宮)を(宮)立(宮)於(宮)其(宮)後(宮)日(宮)と(宮)撰(宮)て(宮)大(宮)宮(宮)の(宮)大(宮)後
と(宮)如(宮)し(宮)其(宮)後(宮)又(宮)禁(宮)中(宮)の(宮)役(宮)不(宮)取(宮)り(宮)び(宮)き(宮)り(宮)て(宮)神(宮)の(宮)秋(宮)院(宮)と(宮)て(宮)明(宮)奉(宮)の(宮)七(宮)月(宮)と(宮)し(宮)は(宮)入
後(宮)宮(宮)外(宮)の(宮)清(宮)き(宮)を(宮)卜(宮)ひ(宮)八月(宮)上(宮)旬(宮)吉(宮)日(宮)を(宮)卜(宮)して(宮)加(宮)茂(宮)川(宮)又(宮)條(宮)で(宮)後(宮)宮(宮)常(宮)の
御(宮)殿(宮)より(宮)新(宮)又(宮)清(宮)淨(宮)の(宮)地(宮)を(宮)多(宮)し(宮)是(宮)本(宮)の(宮)居(宮)小(宮)此(宮)本(宮)垣(宮)を(宮)り(宮)る(宮)が(宮)宮(宮)入(宮)後(宮)
是(宮)抱(宮)つ(宮)の(宮)儀(宮)奉(宮)を(宮)り(宮)後(宮)宮(宮)と(宮)し(宮)て(宮)明(宮)奉(宮)八月(宮)と(宮)抱(宮)つ(宮)且
籠(宮)り(宮)て(宮)九(宮)月(宮)上(宮)旬(宮)又(宮)り(宮)る(宮)月(宮)又(宮)條(宮)で(宮)齋(宮)宮(宮)忌(宮)詞(宮)佛(宮)と(宮)中(宮)子(宮)と(宮)り(宮)經(宮)を(宮)深(宮)成(宮)申(宮)
後(宮)宮(宮)侍(宮)勢(宮)母(宮)宮(宮)又(宮)入(宮)り(宮)せ(宮)後(宮)宮(宮)也(宮) 齋(宮)宮(宮)忌(宮)詞(宮)佛(宮)と(宮)中(宮)子(宮)と(宮)り(宮)經(宮)を(宮)深(宮)成(宮)申(宮)
後(宮)宮(宮)侍(宮)勢(宮)母(宮)宮(宮)又(宮)入(宮)り(宮)せ(宮)後(宮)宮(宮)也(宮) 齋(宮)宮(宮)忌(宮)詞(宮)佛(宮)と(宮)中(宮)子(宮)と(宮)り(宮)經(宮)を(宮)深(宮)成(宮)申(宮)

發長。願を女發長。然と(宮)願(宮)これ(宮)を(宮)内(宮)の(宮)七(宮)言(宮)と(宮)り(宮)死(宮)と(宮)る(宮)病(宮)を(宮)や(宮)り(宮)
矣と(宮)發(宮)血(宮)を(宮)所(宮)也(宮)打(宮)を(宮)按(宮)突(宮)を(宮)と(宮)り(宮)墓(宮)と(宮)壞(宮)これ(宮)を(宮)外(宮)の(宮)七(宮)言(宮)と(宮)り(宮)又(宮)堂(宮)と
香(宮)燭(宮)優(宮)婆(宮)塞(宮)と(宮)南(宮)竺(宮)と(宮)也

○齋宮釋の巡路の系良の系良の例は(宮)其(宮)巡(宮)小(宮)條(宮)河口(宮)園(宮)波(宮)多(宮)

宮古(宮)月(宮)本(宮)一(宮)志(宮)曾(宮)原(宮)飯(宮)高(宮)野(宮)多(宮)氏(宮)利(宮)淺(宮)水(宮)坂(宮)本(宮)秋(宮)宮(宮)小(宮)侯(宮)山(宮)田(宮)宮(宮)治(宮)本(宮)と(宮)經(宮)

○齋宮(宮)京(宮)の(宮)次(宮)成(宮)り(宮)出(宮)御(宮)り(宮)て(宮)多(宮)氣(宮)川(宮)の(宮)御(宮)後(宮)り(宮)て(宮)一(宮)志(宮)の(宮)秋(宮)宮(宮)又(宮)二(宮)日(宮)と(宮)

川(宮)の(宮)秋(宮)宮(宮)又(宮)三(宮)日(宮)の(宮)御(宮)後(宮)り(宮)て(宮)多(宮)氣(宮)川(宮)の(宮)御(宮)後(宮)り(宮)て(宮)一(宮)志(宮)の(宮)秋(宮)宮(宮)又(宮)二(宮)日(宮)と(宮)

櫃(宮)入(宮)り(宮)て(宮)多(宮)氣(宮)川(宮)の(宮)御(宮)後(宮)り(宮)て(宮)一(宮)志(宮)の(宮)秋(宮)宮(宮)又(宮)二(宮)日(宮)と(宮)

阿(宮)保(宮)の(宮)秋(宮)宮(宮)又(宮)二(宮)日(宮)と(宮)經(宮)て(宮)大(宮)和(宮)都(宮)靈(宮)の(宮)秋(宮)宮(宮)又(宮)二(宮)日(宮)と(宮)

又(宮)日(宮)和(宮)介(宮)川(宮)又(宮)二(宮)日(宮)と(宮)經(宮)て(宮)大(宮)安(宮)寺(宮)邊(宮)希(宮)を(宮)立(宮)て(宮)大(宮)和(宮)都(宮)靈(宮)の(宮)秋(宮)宮(宮)又(宮)二(宮)日(宮)と(宮)

河(宮)内(宮)秋(宮)宮(宮)又(宮)二(宮)日(宮)と(宮)經(宮)て(宮)大(宮)安(宮)寺(宮)邊(宮)希(宮)を(宮)立(宮)て(宮)大(宮)和(宮)都(宮)靈(宮)の(宮)秋(宮)宮(宮)又(宮)二(宮)日(宮)と(宮)

御(宮)厨(宮)儀(宮)不(宮)れ(宮)御(宮)此(宮)府(宮)三(宮)津(宮)寺(宮)に(宮)御(宮)漏(宮)り(宮)八(宮)日(宮)又(宮)其(宮)子(宮)の(宮)御(宮)宿(宮)不(宮)れ(宮)九(宮)日(宮)

河(宮)陽(宮)宮(宮)又(宮)十(宮)日(宮)京(宮)入(宮)後(宮)の(宮)御(宮)後(宮)り(宮)て(宮)一(宮)志(宮)の(宮)秋(宮)宮(宮)又(宮)二(宮)日(宮)と(宮)

綿(宮)大(宮)麻(宮)大(宮)秋(宮)日(宮)織(宮)人(宮)像(宮)布(宮)酒(宮)饗(宮)魚(宮)海(宮)藻(宮)脯(宮)塩(宮)水(宮)戸(宮)杯(宮)多(宮)尾(宮)柏(宮)數(宮)葉(宮)葉(宮)

食(宮)蔭(宮)華(宮)龍(宮)經(宮)胎(宮)也(宮)り(宮)御(宮)後(宮)り(宮)て(宮)一(宮)志(宮)の(宮)秋(宮)宮(宮)又(宮)二(宮)日(宮)と(宮)

齋(宮)宮(宮)繪(宮)馬(宮)秋(宮)宮(宮)又(宮)二(宮)日(宮)と(宮)經(宮)て(宮)大(宮)安(宮)寺(宮)邊(宮)希(宮)を(宮)立(宮)て(宮)大(宮)和(宮)都(宮)靈(宮)の(宮)秋(宮)宮(宮)又(宮)二(宮)日(宮)と(宮)

後(宮)後(宮)り(宮)て(宮)一(宮)志(宮)の(宮)秋(宮)宮(宮)又(宮)二(宮)日(宮)と(宮)經(宮)て(宮)大(宮)安(宮)寺(宮)邊(宮)希(宮)を(宮)立(宮)て(宮)大(宮)和(宮)都(宮)靈(宮)の(宮)秋(宮)宮(宮)又(宮)二(宮)日(宮)と(宮)

我(宮)云(宮)月(宮)元(宮)日(宮)の(宮)秋(宮)宮(宮)又(宮)二(宮)日(宮)と(宮)經(宮)て(宮)大(宮)安(宮)寺(宮)邊(宮)希(宮)を(宮)立(宮)て(宮)大(宮)和(宮)都(宮)靈(宮)の(宮)秋(宮)宮(宮)又(宮)二(宮)日(宮)と(宮)

所名

をみて事の成りぬをあらう... 此の地は昔は陸奥より... 按るに近海有糸郷の因美本の神社あり... 大佛 樹るの右 蓮光寺と云ふ... 此寺の標より南へ湯田村と経る... 竹川 安宮村あり 此寺あり 佐々木の杜あり... 此の地名は業平お景の傳と云ふ... 九条 内六世

所名

花園 日本古来のあり 此邊北所斗のろろ葛蒲地と云て生ずる花の時郁く... 竹川の橋の浩たる花その我をばゆるせせりてへく

所名

思ひやろつ川と云宮の流るる花咲のうらみかきむと云く那 馬家

所名

御溝池 日本古来のあり 女宮 脊宮家集ためらう... 春宮女御

所名

星より海道の丸へ入る古なるの古路

所名

北島屋敷 今上まゝ丸村と云城宮川より西二里は... 勝田 和屋 此ま村の大神宮の樂人三登の... 翁塚 勝田が家の宝物として神の御の面の... 藤原 南中村と三村あり 御代山 母宮御代を焼却して... 淡村 真名胡神社内宮末社の内之祭神未詳

所名

根倉 佐々木のの神社内に祭神大蔵神と云 西大渡村と杉野村のろろ大渡の内

所名

根倉神社 不祭字が御意神 圓御祖神社 不祭土御祖神社 根倉 依式帳より土御祖神社根倉建皇御神と云 月夜にち程ぐれ本林もくくびきてあらは渡いりらん

所名

▲大渡瀨 抄りてのたま 信又願 抄りてのまろ ○大渡松 大渡の瀨より 昔倭姫命皇女を神の神輿を忍びて方と

大渡の御後歳母にありぬん神といひて於破の姫まへ 兼隆

此松延室多中大風と倒すと其松の御代官其松と今の松と柱て自二首の舌をそ入り

歳母経て朽け 松と大渡の根とて 帰る波又同ちや

若くは後とそあつる大渡の松れまと母ハ子代をそと

▲大与栢神社 祭神豊玉彦神云々式内之 ○駒除池 駒除池の御代官其松と今の松と柱て自二首の舌をそ入り

▲村松岸 大渡の東の村ありて御遷幸の地なり 女官 誠示

所名

▲宇田 天海田水大刀自神社 祭神豊玉姫命 女官の南御の東の内よりあり 修務社の内之其木の田の字

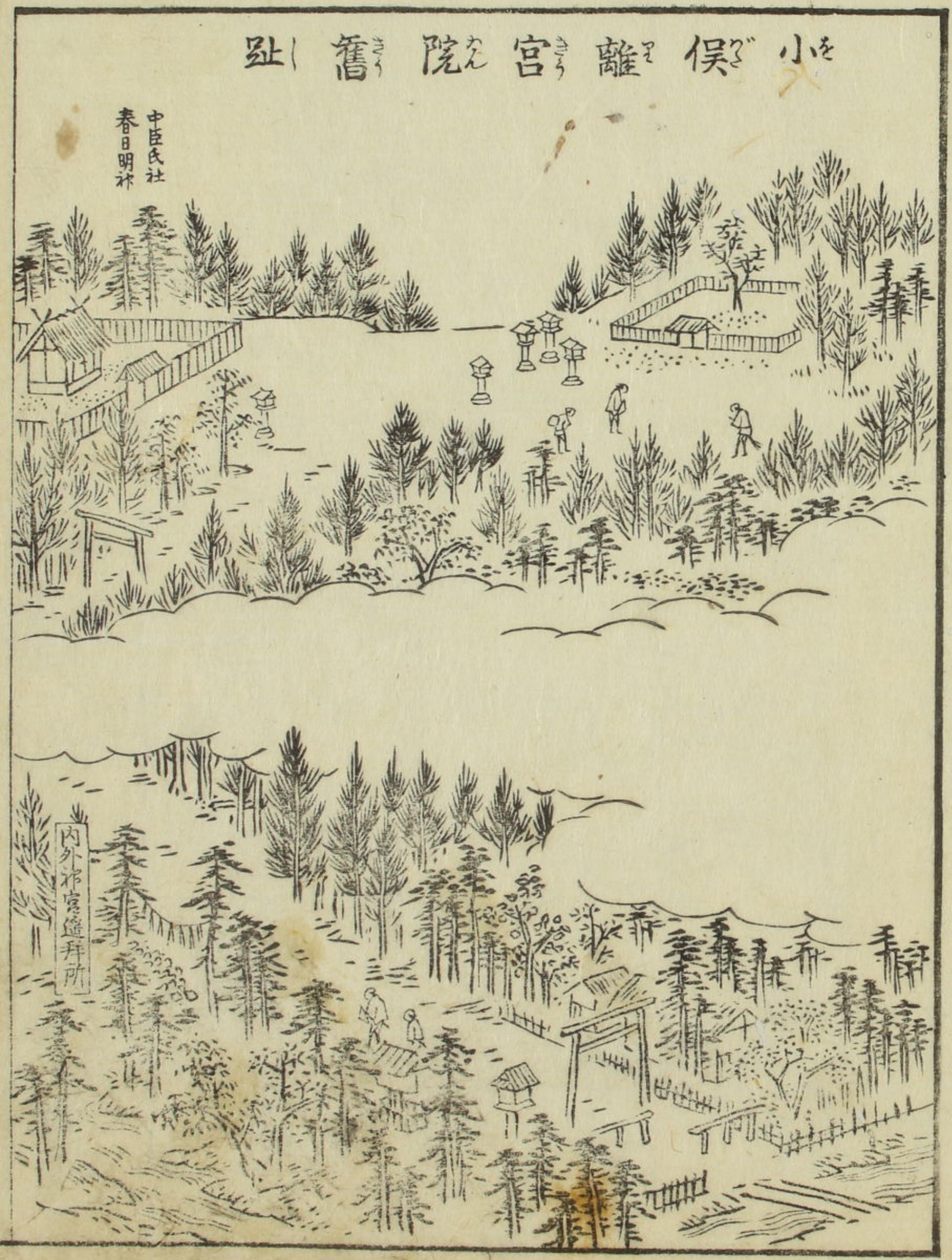
▲有介 田九より ○有介神社 不祭天穗日命土師氏の祖神 有介村 ありて例

▲曙の宇田の畔より立鴨のまのりく喜や万代のりど 俊頼

▲有介 一里あり ○有介神社 不祭天穗日命土師氏の祖神 有介村 ありて例

▲有介 一里あり ○有介神社 不祭天穗日命土師氏の祖神 有介村 ありて例

小侯離宮院舊址



中臣氏社 春日明神

内外神宮造拜所



宮川西岸

○ 飯高より
 舟もるすり
 たるけり

小俣社

小俣

○ 是より南に田丸村あり
 村中田丸禪正大彌の靈祠
 田丸城 虎藏主康其寺
 西の山手後 波糸主家宅
 此相可入相可上社
 留向山田宮寺
 所矢野山 木多社
 伊藤神社 伊藤山一乗寺
 飯高 高宮 比余
 名區多々れども
 此之界と



三ノ四十

とく又毎年内宮にて八月十七日外宮にて六月十六日九月十六日...
 湯田村 明野の茶屋 湯田神社 和祭雷電社 式内之村あり
 竹川 竹川再出るれども 湯田村の南を經て廣會の村に西出湯田郷の南を去り
 此を名不とする其を成るは... 是か小俣離宮院へ出る古乃なり
 上野村 俗に明星といふ每宮村のつき 中明星 新明星
 安養寺 号長松寺 上野村なる十面觀音洛陽東後寺麻元大惠佛
 通禪師の草創なり昔大寺あり今を今に終み中菴とありて
 なると用山の像を安置せり 天正の初より 駿慶せり

傳曰くその... 花園院の御大惠佛通禪師而宮(日系)の御路次及女の死骸ありとありて
 建治の火をいせ 或云 此南田丸御る又廣基寺あり虎落主の中出... 大御宮の靈
 明野の原 彰明星の東一面又明野といふハ本明星 中明星も此なり
 月法と明野が系の夕露路... 小穴窪橋 小俣の
 板田橋 明野の内小穴窪橋の右ありて名不とするハ玉葉集よりて
 小俣 省叙方より旧名 板田橋 明野の内小穴窪橋の右ありて名不とするハ玉葉集よりて
 激波停勢園なる名不たりて... 善信法師
 をりて板田の橋の... 善信法師

契沖世懷編續後拾遺
榎ぬへき板田のてしれ榎はくろあふしはりつろつれろる
をばあむの板田の榎のこほさるけさうゆうんあむ我せこ

此致美系第十あり先の致美を分致せしむるをばあむとあふしはりつろつれろる
田とよめる松日本紀あり又そをたこと榎はくろあふしはりつろつれろる
まうたの宮之を付く板田の榎はくろあふしはりつろつれろる
かろあふしはりつろつれろる
つとせ榎はくろあふしはりつろつれろる

○小俣神社 今八王寺といひて 祭本倉稻穂魂命外宮の末社之 ○無量寺 安永末

○離宮院 小俣の所よりたふしあり 祭本倉稻穂魂命外宮の末社之 ○無量寺 安永末

二十二年七月七日豊受宮を丹後國与謝真名丹原より迎ふる時度會郡
沼本郷平尾より移宮を建て三月廿一日移すこれを離宮とすなる其

後高河原宮より移して後延暦十六年八月三日此湯田御宇有西

村より移すとあり 是れ後内親王の離宮移すなり其後内親王離宮院は孝徳天皇

移すと云是其後仁明天皇承和二年十一月六日移宮を湯田の離宮院と云宮と云

移すは外宮の離宮あり をさる川より引くより移すは外宮を湯田の離宮院と云宮と云

たり又屯倉も一不ありて大慶なりし其後仁明天皇承和二年十一月六日移宮を湯田の離宮院と云宮と云

例抄 非宮雜 は次す。名よん西。其後廢せりと大宮司長官長官再真せり

中臣氏社 内あり 是なり津波が海と云ふに云と離宮を湯田の

移すと云水難によりて共み移すと云難例抄ありたり則春日明神に

して祭主宮司の祖神なればは成なる。此下に首十員の孫宜あり

本宮も移すと云附皆供奉せり其内一家上田久末と云人此も移すと云

久末の名あり 久末の名あり

未嘗濃 宮川の下海 此不喜海苔の名物と云せのりしと云

宮川の末にあり あのかけてるが中よりとりて食すなり

いふるは水にのりて人たのむるなり あのかけてるが中よりとりて食すなり

さうと云ふは さうと云ふは

長明

江州贈平志賢并序
序

柴榮所拈

三

